

特別支援学校（知・肢・病弱領域）専門問題例

例 1 次の文の(a)～(g)にあてはまる語句を答えなさい。

- (1) 学校教育法第72条では、「特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱を含む。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に（a）を施すとともに、障害による（b）又は（c）の困難を克服し（d）を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。」とされている。
- (2) 学校教育法施行令第22条の3によると、知的障がい者の障がいの程度は、「1 知的発達の遅滞があり、他人との（e）が困難で（f）を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの」、「2 知的発達の遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないもののうち、（g）への適応が著しく困難なもの」とされている。

例 2 次の各文の下線部が、正しい場合は○を、間違っている場合は正しい語句に直し、書きなさい。

- (1) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」においては、国の行政機関や地方公共団体等が「障害者への合理的配慮の提供」を行うことは法的義務とされている。
- (2) 知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部には、職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識、技能の習得を図る教科として「キャリア」が設けられている。
- (3) 糖尿病とは、血糖をコントロールしているインスリンが何らかの原因により、分泌されなかったり、量が少なかったり、働きが悪かったりすることによりおこる病気である。
- (4) 継次尺度や同時尺度などからなる「認知尺度」、語彙尺度や読み尺度などからなる「習得尺度」で構成される検査は、DN-CASである。
- (5) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では、知的障がい者である児童に教育を行う特別支援学校小学部の各教科の内容は3段階で示されている。
- (6) 座位で横方向に倒れそうになったときに、とっさに手を伸ばして、倒れて頭を打つのを防ぐ反応をモロー反射という。
- (7) 特別支援教育巡回相談員は、各学校における特別支援教育の推進のため、主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担う。

(H29)

例 3 次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

- (1) ダウン症候群の定義を説明しなさい。
- (2) ADHDについて、簡潔に説明しなさい。
- (3) 特別支援学校の特別支援教育に関するセンター的機能を3つあげなさい。
- (4) 発達障がい児に対する指導においては、セルフエスティームを高める指導が大切である。その理由を簡潔に説明しなさい。
- (5) トークン・エコノミーについて簡潔に説明しなさい。

例 4 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 肢体不自由のあるAさんは、学習時の姿勢に十分配慮する必要がある。学習活動に応じて適切な姿勢を保持することによる学習面での効果を2点述べなさい。
- (2) ダウン症のBさんは、授業中に椅子をガタガタと音を立てて揺らすことが多い。なぜこのような行動をとるのか。考えられる行動の意味を3つ答えなさい。
- (3) 小学部1年生として新たに入学したCさんは、知的障がいがある。知的障がいの特徴を述べなさい。

(H28)

例 5 次の文の(a)～(i)にあてはまる語句を《語群》から選び、記号で答えなさい。

- (1) インクルーシブ教育システムにおいては、教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、(a)、特別支援学級、特別支援学校といった、(b)のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。
- (2) (c)とは、①他人との(d)関係の形成の困難さ、②言語の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障がいであり、(e)系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。
- (3) (f)とは、慢性疾患等のため継続して医療や生活規制を必要とする状態、(g)とは、病気にかかりやすいため継続して生活規制を必要とする状態のことである。
- (4) 10分以上てんかん発作が続く時には、発作が連続したり短時間の発作が反復したりする(h)状態になる危険性があり、注意が必要である。
- (5) 心理検査の実施にあたっては、1種類の検査だけでなく、複数の検査を組み合わせることで、より信頼できる情報が得られ、多面的、総合的に解釈することができる。このように、複数の検査を組み合わせることを「心理検査(i)」という。

《語群》

ア	クローヌス	イ	通級による指導	ウ	社会的	エ	主体的
オ	末梢神経	カ	身体虚弱	キ	けいれん重積	ク	病弱
ケ	肢体不自由	コ	特別支援教室	サ	中枢神経	シ	A D H D
ス	クラスター	セ	安心感	ソ	バッテリー	タ	訪問教育
チ	自閉症	ツ	連続性				

(H28)

例 6 次の文は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領「第1章 総則」の「第2節 教育課程の編成」「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の「2(9)」である。(1)～(3)にあてはまる語句を書きなさい。

障害のため(1)して教育を受けることが困難な児童又は生徒に対して、教員を(2)して教育を行う場合については、障害の状態や学習環境等に応じて、指導方法や指導体制を工夫し、学習活動が(3)に行われるようにすること。

例 7 次の文は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の「第1章 総則」の「第5 重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の「3」である。(1)～(5)にあてはまる語句を書きなさい。

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、(1)、(2)、外国語活動若しくは(3)の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは(4)に替えて、(5)を主として指導を行うことができるものとする。

なお、専門審査には、この専門分野の問題以外に、基礎免許状の問題もあります。

特別支援教育（知・肢・病弱領域）正答例

問題番号		正 答 例	
例 1	(1)	(a)	準ずる教育
		(b)	学習上
		(c)	生活上
		(d)	自立
	(2)	(e)	意思疎通
		(f)	日常生活
		(g)	社会生活
例 2	(1)	○	
	(2)	職業・家庭	
	(3)	○	
	(4)	KABC-II	
	(5)	○	
	(6)	パラシュート反応（保護伸展反応）	
	(7)	特別支援教育コーディネーター	
例 3	(1)	（正答例） 染色体異常の一種で，21番染色体が1本増加することで発症する。21トリソミーともいう。知的な遅れや低身長，頸椎の不安定性，心臓病などの合併症を伴うことがある。	
	(2)	（正答例） ADHDとは，年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力や，衝動性，多動性を特徴とする行動の障害で，社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。7歳以前に現れ，その原因として中枢神経系に何らかの機能障害があると推定される	
	(3)	（正答例） ・ 小・中学校等の教師への支援機能 ・ 特別支援教育等に関する相談・情報提供機能 ・ 障害のある児童生徒への指導・支援機能	
	(4)	（正答例） 発達障がいがある子どもは，周りのみんなが普通にできることができず，叱られることが多いので，セルフエスティームが低くなり，2次的障害を起こしやすく，不登校や自殺や非行にいたることもある。セルフエスティームを高めると，自分は価値ある人間だと思い，注意されたことを受け入れ，自分を向上させようという意欲が芽ばえるから。	
	(5)	（正答例） 具体的な目標を決めて，子どもが目標とする行動がとれたら，シールやスタンプ，ポイント等のトークン（代用貨幣）を与え，ある一定の数だけたまったら，子どもの好きな物や活動と交換できるシステムをいう。	

問題番号		正 答 例	
例 4	(1)	(正答例) ・学習内容の理解が深まる(位置, 方向, 遠近の概念など) ・身体の手操作が行いやすい(文字を書く, 定規やコンパスを用いる等)。	
	(2)	(正答例) ・周りの生徒が注目してくれる。 ・自分の要求がかなう。 ・嫌な活動から逃避することができる。	
	(3)	(正答例) ・認知や言語に関わる知的能力や他人との意思の交換, 日常生活や社会生活, 安全や余暇活動などについての適応能力が, 同年齢の児童生徒に求められるほどには至っていない。	
例 5	(1)	(a)	イ
		(b)	ツ
	(2)	(c)	チ
		(d)	ウ
		(e)	サ
	(3)	(f)	ク
		(g)	カ
	(4)	(h)	キ
	(5)	(i)	ソ
例 6	(1)		通学
	(2)		派遣
	(3)		効果的
例 7	(1)	各教科	
	(2)	道徳	
	(3)	特別活動	
	(4)	総合的な学習の時間	
	(5)	自立活動	